明治二十四年四月三十日印刷
明治二十四年四月三十日出版

(非賣品)

婦人衛生會雜誌

第十七號

私立
大日本婦人衛生會

婦人衛生會雜誌

第十七號

目次

◎慢性傳染病の豫防に就て　岡田和一郎君演說

◎精神とインフルエンザの關係に就て　榊　俶君演說

◎衛生叢談

◎雜　錄

◎コヒ治療法實施の成績

◎コヒ液試驗

◎東京の虎列剌

◎痘瘡と發疹窒扶斯

◎本會錄事

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生會雜誌第十七號
明治廿四年四月三十日發兌

講演

慢性傳染病の豫防に就て

岡田和一郎君演說

私は此に掲げました通り、慢性傳染病の豫防と云ふ問題で、皆樣に少しく御參考に爲る事を申上げ樣と思ひます。此慢性傳染病と云ふものは二つ三つではなく十も二十も種類が御座いますから、其豫防法を一々此席で申上げる事は出來ません。故に此席に於て申上たいと思ふのは、慢性傳染病の中でも、日本に最も多く在つて、又其害の最も怖ろしく、殊に皆樣に直接の關係ある所の結核即ち肺勞と、又最も忌むべき所の梅毒と此の二つの豫防法を申上たならば幾分か衞生上の御參考にもなり甚だ喜ばしい事と思ひます。

此慢性傳染病の外に急性傳染病と云ふのが御座います。ソレハ皆樣も御承知の通り、先達迄猖獗を逞うして人々怖れて居ッた所の虎列刺病或は今から方に世間に廣まらんとして居る所の窒扶斯即ち熱病、或は痘瘡抔と云ふ樣な極く急にして人をイヂめる所の傳染病は世間の人も其病名を聞いたのみにて虎列刺は怖い、熱病は恐ろしいものだと云ふ事を悟られ、其の豫防法の大切だと云ふ事を悟られて充分注意さるゝで有りませう。虎列刺が流行すれば人が言はずとも衣食住の事に氣を附けるで有らう。又痘瘡が流行る時は皆樣の愛する所のお子供衆には種痘するは必要だと云ふ事は、人に教えられずとも自ら悟るでありませう。去りながら世間の人は慢性の傳染病、即ち肺病或は梅毒抔は兎角侮つて虎列刺の樣には恐れません、又虎列刺病に對する樣に是等に向つては豫防法に注意致しません。先づ多くの人は忽せに

して居るが、是れは實に間違つた事であらうと考へまする。何故間違つて居るかと云ふに、虎列剌病とか窒扶斯、熱病とか云ふ樣な病氣は實に怖いものには相違ない、此の病氣に罹れば大概一命を取られるものに定まつて居る樣だけれども、かゝる病氣は年々流行する者では無くして數年或は十數年に一度位づゝ流行します。或は其の間に流行して來ても一地方に止まつて、全國至る所に其病氣の有ると云ふ樣な事は甚だ稀れある事で有ります、故に虎列剌病の豫防法は必要には違ひないけれども、其豫防法を心得て居つても、年中之を行ふと云ふ必要は有りません。虎列剌病流行する時は必要でありますけれども流行せぬ時には入用ではないその上に所謂虎列剌熱病抔醫師の力で隨分癒る事が出來る。世間の人は虎列剌に罹ッて避病院に送られたならば再び生きて歸る事が出來ぬ樣に考へて居りまするが、决してサウでない早く手當をして充分に良い治療を盡せば隨分癒るもので有ります、今年抔も虎列剌は隨分澤山有りましたけれども併し其中で癒つたのも隨分澤山ある。又熱病の如きも初めから適當の療治をさへ受けたならば殆んど死ぬ者は無い。之に反して私の申す慢性傳染病、即ち肺勞の如き病氣は始終社會に流行して居る、其上に又老若男女を問はず如何なる人でも罹ります。又困る事には今日の所にては醫師の力で癒す事は出來ない、世界中の醫者が何卒して肺病を癒したい、如何にもして特効藥を見附けて我一人功名を仕樣と考へて全力を盡して肺病の療治法を考へて居るけれども未だ良い方法を發見したものもない位で、人一度肺病に罹ッたならば、ソレが此の世の別れと思ふても能い、斯くの如く一旦此病に罹ッた以上は致し方のない病氣であるから、皆さんも健康に樂しく世を送らうと思ふならば肺病に罹らぬ樣

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に工夫するのが要用であらうと思ひます。急性の傳染病の豫防法は知らずとも、慢性の傳染病の豫防法は平生皆さんの脳中に蓄へて置かるゝ事を私は望むであります。

ソレデ私は丁度只今虎列刺が世間に流行して、未だソレガ終るか終らぬかと云ふ場合にも拘はらず、殊に直接に關係はなくとも慢性傳染病の豫防法は、急性傳染病の豫防法より必要であると申す所以であります。

扨て此肺勞、肺結核と云ふものは如何なるものかと云ふに、是は醫師の方でも隨分六ケしいことで有るから、委しいことは申上げても別段必要は御座いませんが、大躰申上げて置かんと後で不都合で御座いますから、一寸此事を申上げて置きますが、矢張り原因は小さな有機物、バチルレン（小さな虫の樣なもの）と云ふものがあつて、其のバチルレンと云ふのが肺病患者の痰の中に生活して居る、而して肺の組織を漸々に食ひ破り、ソシテ人間に最も大切なる所の身躰の血液抔を取つて仕舞ふ、ソレ故年を經るに從つて身躰は愈々痩せ遂には冥土に迄連れて往くのである、斯う云ふ病氣は熱の出た時醫師に頼んで熱を取らうと思つても、朝好ければ夕方悪るいと云ふ樣に中々熱は下りません、其他仕事をするにも甚だ大義で御座います、寢汗が出たり眠が不平になるとかいろ〱身躰の工合が違ッて來る而して漸々悪くなつて遂に死ぬのであります、

此の肺勞と云ふ病氣は男子に多きか、女子に多きかと云ふ問題を設けて、諸國の例を尋ねて見ますると、獨逸邊では男子の方が割合に多い、英吉利或は亞米利加等では男子より女子の方が多い。日本は如何にと云ふに未だ立派な統計表が有りませぬから分りませんが、私の見た所では男子よりは女子の方が肺病

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に罹る人が割合に多い樣に思はれます、それから又病氣に罹る人の位置を調べて見ると、西洋では身分の賤しい者に多い、書物には即ち狹い所に大勢で住居して居るか、或は狹い所で仕事をすると云ふ樣な下等な人が此病氣に罹り易いと書いてありますが。日本抔ハサウデない、私は素より經驗が少ない者故解りませんが、大學御雇のベルツ先生の調査した所に據れば下等の人より上等の人の方が肺病に罹る事が多い、又西洋でも此節調査した所では上等の人が下等の人より少ない樣だけれども、人口を調べて見ると下等社會の人の方が上等の人より人口が多く御座りますから比較の上では上等の人が割合に此病氣に多く罹ると云ふ說も御座います。シテ見るとベルツ先生の調べられたる成蹟も果して間違つた事でもない、ソレ故上等の人が多く肺病に罹ると言つても間違は無からうと思ひます。

ソレデ肺病に依つて死する死亡數はドレ程かと云ふに、實に怖しいもので御座います、病氣の數は昔から以來追々殖へて來て今の所では幾百あるか分らん位で有りまするが、肺病ほど死亡者を出す者は一ッもありません即ち社會全躰の病氣で死する者の中の七分の一丈けは肺病で死亡すると云つても宜しい、ソレ故數百の病氣の中で肺病で死亡する七分の一を減じたならば大變に世の中の益になる、此の事に就ても肺病の豫防法は益々價値が出て參ります。

それから第二に申上げる所の梅毒はどんなものかと云ふに、是れは肺病程甚だしい病氣では無い、去りながら是れも矢張り慢性の傳染病で有ますから、始め一寸した凝りが身躰の中の一部に在ッた時に其毒の豫防をすれば宜しいか、一向痛くもないし別に差支も無いから捨てゝ置くと、身躰の中に腫物が出來るとか頭の髮が拔けるとか鼻が落ちるとか云ふ樣

に爲ります、左すれば假令病氣は癒ほつても大變に身躰に損を受ける、此節は隨分外科でいろ〳〵の療治が出來まして、鼻を附ける事杯も出來るけれども、併しながら誠の鼻の落ちたのを元の通りにする事は出來ぬ、則ち身躰の損をしたと云はなければならない、加之ならず人間の生活するに大切なる腦髓脊髓等の中に在る所の必要なる原素を梅毒が犯して來ることがあります。肺勞と云ひ梅毒と云ひ實に恐ろしいもので有ると云ふ事は申さずとも御承知では御座いませうが、尚ほ其上に病氣の狀躰は斯くの如きものだと云ふ事をお聞きになつたら、尚ほ〳〵豫防法の肝心な事がお解りに爲りませう。傳染病が人から人にうつる方法は種々有ります、從て豫防法も其方法に依ていろ〳〵に區別しなければならんから、私は今傳染の方法に依て區別して申上げ樣と思ます。

偖第一○○○○○○○○○の豫防法は平生の御注意なり世の中に生活して居る所の人は、平生是等の病氣に罹らぬ樣に注意して貰ひたい、何故かと申せば梅毒も肺勞も共に傳染する方法が大變有ります、若し平生皆さんが迂濶に生活を爲すつて、一定の注意だもなさらん時には知らず知らずして肺勞に罹り梅毒に罹る事が有るかも知れない、夫ゆゑ平生斯う云ふ場合には肺病に罹る、斯う云ふ時には梅毒に罹るもので有ると云ふ注意をして戴きたいので有ります

其注意にもいろ〳〵要點が有りますが、其一二を數へ上ると前申す通り肺病の毒は虫の樣な有機物で、ソレが肺病患者の痰の中、又稀れには大便の中に生活して居る。而してソノ人に傳染する方法は、其虫が室內の塵芥と一所になつて、人が空氣を呼吸する時に共に肺の中に這入ッて往くので有る。ソレ故、第一に注意せんければならんのは、懇親の人が同病に罹ッて看護すると云ふ場合には致し方も有りませ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

んが、さもなくば成るべく近寄らぬ様にして戴きたい。

○○第二に注意すべきは、肺病の有る母親の乳は時によると其毒を含んで居る、其乳を飲んだ小兒は成長してから肺病に爲る事が間々有ります。故に少しにても肺病の氣の有る母親は其乳を小兒に飲ませぬ様にして貰いたい。

○○第三に注意しなければならんのは、申すまでもなく産をするには必ず産婆を要しますが、其産婆が若し肺病に罹つて居ッた時には産婆から小兒に肺病を移す事が度々有ります。夫れは西洋にも少ないことでは無い。小兒の生れた時には鼻の中にいろ〳〵の汚物、粘液が溜つて居る、ソレを出す時に産婆が肺病者で有るなれば、其粘液を取り出すまでは健康な生れで有の所の小兒も、産婆の爲めに恐るべき所の肺病を起す様な不運に逢ふ事が有る、ソレ故成るたけ健康なる産婆を撰ぶ事が必要で御座います。

○○第四に牛乳を飲む時は必ず煮て飲む様にして戴きたい、皆さんも御承知か知れませんが、牛にも肺結核、勞咳と云ふ人間と同じ様な病氣が有ります。而して人間の乳の中に現はれると同じ様に牛の乳の中にも其病毒が這入つて居ります。其病牛の乳を飲んだならば牛の結核を吸ひ込んで、夫れが爲め病氣になる事が有ります。今日では政府でも病牛の乳を販賣せぬ様に注意されますが併し世の中には隨分狡猾な人が有りますから迂闊しては居られません、故に、如かず牛乳は一旦煮て飲まんには………

ソレから此次には梅毒の傳染の事を申上まするが、梅毒と云ふものは直接傳染病と申しまして、病毒と身躰と接しなければ移る事はない、梅毒の有る人に接する事さへしなければ罹らないものと思ふのが一番好い、ケレども、如何に品行の正しい人でも、如

何に梅毒患者に接しないと考へて居ッても、思はぬ事から梅毒に罹る不幸を見る事が有ります。ソレハ何故かと申しますると患者に接しないでも計らざる道を通ッて己の身躰に移ッて來る事が有ります、而して其計らざる道も澤山有りまするが今其中の一二を申せば、

○第一に梅毒は接吻等から移ります。歐羅巴邊りでは兄弟姉妹の愛情の爲めに時々接吻したり、其他接吻する事が幾らも有る、ソレニ依て梅毒を受ける事が澤山有ります、故に日本には從來接吻と云ふ事は左程行はれて居りませんが、御承知の如く內地雜居にでもなッて接吻の事が行はれて來ましたならば、此人は梅毒の無いと云ふ事を確めぬ中は接吻しない樣にしなければならん、然らざれば思はぬ禍ひを受くる事が御座います。

○第二に飲食の器、或は煙管抔は己れの物を一個定めて置いて、そして他人の物は成るたけ用ゐぬ樣に仕なければならない、若し己を得ず他人の物を用る樣な事が有るなれば、是れを用ゐても梅毒を受くる恐れの無いと云ふ事が充分に分つて居る時は用ゐても宜しいが、疑ひの有る時は用ゐない方が宜しい、何故かなれば斯くの如き病毒の有る人の用ゐた器を用ゐると、ソレからからだ中に病毒がひろがる事が有りまするから氣を附けなければならない。

○第三に梅毒に有つて居る人の用ゐた剃刀、或は厨刀小刀とか云ふ樣なもので、自分の顏を剃り或は料理をしたりすると、時として梅毒を受くる事が有る。故に私は大道抔で剃髮師が何處の馬の骨やら解らん人の天窓を剃つた剃刀で直ぐ外の人の天窓を剃つて居るのを見る度に險ない事をすると思ふて嘆いて居ります。故に人の頭などを剃つたならば、一旦消毒して用ゐる樣にしなければなりません。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○○第四に注意すべきは梅毒性の産婦が分娩した時に、産婆自らが梅毒に傳染する事が有る。又梅毒の有る所の産婆が産婦幷に生兒に梅毒を移す事が御座います、故に産婆は梅毒の有るものに近寄てつも毒を受けぬ樣に消毒を嚴重にしなければならない、又世間の産婦方も行き届く丈注意を爲つて、梅毒の無い産婆を頼む樣に注意しなければなりません。歐羅巴の某所に一人の産婆が居りまして、某産婆が或る梅毒性の産婦の取り上げをした時に、計らず手に毒の附いたのを知らずに捨て丶置いた爲めソコから梅毒を受けました、ソしてソレを自分の良人に移し、又外の産婦に移し、僅か八箇月を出ない中に漸々傳染して百人以上の梅毒者が出來たと云ふ事で有る。ソレからモウ一つ外の所でも矢張り産婦から梅毒が延がッて、四箇月間に四十八人以上の梅毒者を出したと云ふ事が有ります。實に此點は注意しなければなりません。

○○第五に注意しなければならんのは、子供衆の種痘をなさる時に手から取つた所の痘苗を植えて貰はんが宜しう御座いますが、醫者の都合に依て時々先の子に植えたものを、後の者に植える事が有る、其時には前の子が梅毒で無いと云ふ事が證明されて居れば宜しいが、ソレが分らん時は種痘をして貰はん樣にするが宜しい、前の子供が梅毒性の者で有つて夫れを次の子供に移した時には、痘瘡から傳はッて梅毒に罹る事が度々有る。故に非梅毒の證明が有るならば宜しいが、さもない時は調べて植えて貰うが安心で有らうと思ひます。

以上申上げたのが平生注意すべき點で有る、素より是等の事を一々申上たならば澤山有りますが、英敏なる皆さんは一を聞て十を知るの方々故、是れ丈け申上たならば充分お解りになるだらうと思ひますか

ら、次の箇條に移ります。
第二に御注意を願ひたいのは不健康者の注意。凡て此結核と云ひ、肺勞と云ひ、健康の人は其病氣に罹り惡ひ、則ち極く丈夫な人なれば肺病の毒が空氣の中に傳はッて來ても、其人が盛であるから、其毒(虫)を肺の中で殺して仕舞うとか、或は再び呼出して仕舞ッて病氣にならぬが、併しながら平生虛弱い不健康な人に接したならば、中々其毒に打勝つ力が乏しいから、病氣にも罹り易い。ソレ故健康の人の平生注意すべき事は前申上た丈で御座いますが、不健康の人は世間一般より尙ほ一層注意しなければならんと思ひます。
偖てサウ仕まするを不健康の人は特別に注意しなければならん。不健康の人とは如何なる人かと云ふに、第一に生れ付き虛弱の人……生れ付き虛弱の人とは如何なる人かと云ふに、二親の中一人にても肺病に罹つた人の子は弱い、如斯者は其病氣を生れながら持ッて居ッては假令丈夫の樣に見へても健康の人とはからだが違ひます。故にサウ云ふ人は不注意すれば必ず肺勞が起ると思ッて、充分に注意しなければなりません。又兩親の中梅毒か或は淫と云ふ病氣に罹ッたものが有りましたならば、其人に出來た子供は不健康の人であるから、病氣に罹り易い身躰で有ると思ふて、深く注意しなければなりません。又年老いた人の間に出來た子供は、壯年の人の間に出來た子よりは弱い、是等の人も深く注意しなければなりません。
其次は生來健康で有ても、或病氣の爲めに或は非常の多勞とか、仕事が過ぎたとか、產を度々したとか、又は子供に乳の與へ樣が長過ぎたとか、云ふ事の爲めに弱くなッた人も斯う云ふ病氣に罹り易いから、能く〳〵注意しなければなりません。

其次は呼吸機の病氣、感冒の爲め氣管支加答兒を起したとか、或は始終痰の出る人々は動もすれば肺病に罹まするから早く療治して癒さなければならん。何故かと云ふに今申す通り健康のからだなれば病毒が這入つて來ても打勝つ事は出來るが、不健康の人には之に打勝つ事が出來ませんから、一旦サウ云ふ病氣に罹ッた人は充分に注意を怠らず、肺病を起さない樣に望みます。

其次には身體の一部を怪我をして擦剝いた所が有るとか切ッた處が有るとか、僅かにても傷が有ッたならば早く醫師に托して癒すか或は癒さんにしても消毒して外から毒の這入らないやうに繃帶を掛けなければならん。サウしないとソコから毒が這入り肺病或は梅毒杯を起す事が有るから、僅かの傷なりとも決して忽せにする事は出來ません。

以上申上げた丈けを總括しまするを生來虚弱な人又は病氣に依つて弱くなつた人及び氣管支加答兒とか云ふ樣な呼吸機の病を起した人、又ドコかに傷口を拵へた者は肺病杯を起し易いと戒心して、通常の人より深く注意を要したいと思ふのであります。

第三には結婚上の注意、肺病と云ひ梅毒と云ひ共に傳染病で有りまして、以上申上た通りいろ〳〵の方法に依て甲より乙に傳り乙から丙と云ふ樣に段々に傳はッて往く恐るべき病氣で有りまして、夫が肺病か梅毒で御座いますれば其病氣が必ず妻に傳る、啻に妻に移るのみならず、其子供にまでも遺傳するか、さもなくば梅毒で有ればいまだ月滿たぬ中流產するか、肺病で有れば十五六歳まで成長して、蝶よ花よと寵愛致して居りましても、遂に親から遺傳の肺病を起して殪れる樣な不幸に逢ひまするから、良人の肺病梅毒は婦人に取つて非常な不幸で有ります又婦人の方に毒が有つても、矢張り是れと同じ樣に

良人に移る、又小兒にも遺傳させる所の性質を以て居る、ソレ故夫婦の中いづれか一人是等の病氣に罹ッたならば、實に一家の不幸極まる事と云ッて宜しい。既に斯くの如き人と結婚したる人は致し方もないが、是れから婚を求めらるゝ人は是等の病の有無を穿鑿するは殊に大切なる事で有ります。急性の病は直ぐに癒るか死ぬか極りが付き易いが、慢性の病はヂリ／＼來るので、短きは數年、長きは數十年間病床に呻吟して、遂には生命を落すのみならず、相當に在ッた家財まで蕩盡して仕舞う様になる故。元來日本では癩病は穿鑿するけれども、肺病梅毒などは別に穿鑿しなかッたが、今後は是等の事にも充分注意する様に致したい、而して此肺病は子供の中には少なく、十五歳以上三十歳までの間に一番多く發します、此度日本の結婚年限も定りましたが、肺病の起るは男子も女子も丁度結婚する時分に起るが或は婚を結んで初めての小兒を生む時分、則ち結婚後一二年經つて一家和合して情交益々濃かならんとする時に起るものですから、成るべく結婚を遲くして、此時期を經過して後に結婚する様にいたしたならば宜からうと思ひます。

ソレから第四には看病する時の注意を申します、皆さん方も若し止むを得ず斯くの如き病氣の人を看護しなければならぬ場合には、自分も其病氣に感染しない様に保護しなければならんが、ソレには如何なる所置をしたら宜からうと云ふに。素より看病すると云ふのは、其病人の事は何から何まで適切に扱ふのではなく、醫師が病氣の事即ち治療法を擔任して居る故、看病者は病人の都合の能い様にして看護をする丈けでよろしいのである。故に今申す通り肺病者の病毒と云ふものは痰の中、大便の中、乳の中にあります（汗の中にも病毒が出ると云ふ人も有りま

すが、ソレハ確かな事で無い故あてになりませんが）故に兎に角病人のからだから出たものは燒き捨てるか、若くは二十倍の石炭酸（或ハ五百倍の昇汞水でも宜しい）で消毒するが宜しい。又患者に用ゐる處の器は何に依らず凡て定めて置いて、外の人は決して用ゐぬ樣にしなければなりません。

其次に注意しなければならんのは、看病する間は成るたけ身躰を溫くし、滋養有る食物を食し、風を冒かぬ樣に仕なければならん、若し不健康の者が看病して居ッたならば、同じく病氣に罹ります。故に其上の大事を取ッて申せば看病するならば、己れのからだを健康にして而して後看病するがよろしい。慢性傳染病の豫防法は以上申し上げた處で大抵お解りになッたらうと思ひます。

終りに臨んで一言して置きまするは、此肺結核は醫師の力で癒す事の出來ない最も恐ろしい病ひである此世の中の人は兄弟姉妹同胞の中であるから、誰れしも此病氣に罹るは實に憐むべき事である、故に若し我々が斯かる忌むべき病氣に罹ッたならば、其病毒を世間にひろめぬ樣にするは同胞の間の世間に對する義務でもあります、又世の中に病人を一人でも減らしたいと云ふには、我々か不幸にして、其病氣にかゝッても、成るたけ人を遠けて悉く醫師に托するが、同胞に盡す一義務であらうと思ひます。今日は是れで御免を蒙ります。

精神病とインフルエンザの關係に就て

榊　俶　君演說

大澤　豊子　速記

私は、精神病とインフルエンザの事に就てお咄しを致します、一躰此一月の例會の時に、精神病の原因と云ふことをお咄し致しまして、今日は其續きを申述

る筈で御座いましたが、近頃は大分感冒が流行るが其感冒と精神病とに何か關係があるなれば、お咄し申上げまする樣にと、加藤會長よりの御依賴が御座いました。幸ひ流行性感冒は、精神病の原因となる事が解かッて參りましたし、私は其實見を十八斗りの患者に就て致しましたから、其事をお咄し致します。

流行性感冒(インフルエンザ)は隨分古くからあるので、西洋の歷史を見ますると、百八十年程以前よりある病で、普通の感冒と違ひまする所は、大勢が一度に同じ病に罹り、又熱が强くなり、身體が弱る事が非常で有る。ソレ等が普通の感冒と違ふ所で有ります。併今日迄は、流行性感冒に罹つた、ソレが爲めに精神病が起ると云ふ事には氣が附かずに居りました。流行性感冒は、精神病を起す原因になると云ふ事に始めて氣の附いたのは、昨年のとで御座います。西洋でも流行性感冒の流行ッたのは、明治二十二年の暮で有ります。ソレから續いて御承知の通り、歐羅巴から亞米利加に廻り、亞米利加から日本に渡ッて來た感冒で昨年の四月から七月頃までは隨分流行りました。皆さんの中にも必ずお罹りになつたお方も有りませう、現に私も罹りました、併し其後暫く跡を絕ちましたが。又當年になりましてから、東京では實に非常に流行りました。併し此頃は餘程減じて參りましたから、最早追々に無くなるで有らうと思ひます、此感冒は、隨分不愉快な心持ちの惡るい病氣で御座います。皆さんも新聞で御承知で御座いませうが、インフルエンザが原因と爲ッて起る肺の焮衝肋膜炎、其外リウマチス等の病は、後に殘りましてソレが爲め遂に生命にまでも關係する樣になります。殊に御老體(年齡六十歲以上)のお方が流行性感冒に罹つた以上は、中々重い病に陷り、重症の

肺の焮衝などに罹ります。そしてそれが爲めに命を落すものが澤山有ります。

偖て精神病は流行性感冒にドレだけの關係が有るか、又流行性感冒はドレ丈け精神病を起す原因に爲るかと云ふ事を尋ねて參るに（是は西洋でもそうで御座いますが）流行性感冒が原因になつて、精神病を起した患者は至つて少ない、恰度總精神病患者に割合を立ッて見ると、四十の精神病者の中に、流行性感冒が原因で、精神病の起つたものは一人の割合である。シテ見るとインフルエンザは、精神病には至ッて關係が渺い。然してドウ云ふ工合に病が起つたかと云ふに、今私は病床日誌を一ッ二ッ讀んで例を擧げて見ますれば、

始めて私の見ました患者は昨年の七月朔日で、其患者は二十三歳になりまする御婦人で有ります。而して其人は既に十九歳の時に他へ結婚をして、只今では專ら家を治めて、通常の妻君の業務を執ッて居る。處が此人は性質極く温和の人で有ります。又餘り無駄事を申さない、從ッて人の附合も好く、又曾て精神に變りが有ると云ふ事は誰も認めたものも無い、身躰も少し小ぶりでは有りますが健全です。最も十歳の時に膓窒扶斯を煩らッたと云事丈けは知れて居る、ソして十九歳の時に結婚をしてから、昨年の一月迄に子供衆が二人出來た、其惣領は生れると一週間許り經ッてから、腦病で斃れて仕舞ッた。所が其御婦人が昨年六月十三日より流行性感冒に罹り、初めは痰が出て鼻が出る位ひでしたが、其翌日は熱が有り、頭痛がし、吐氣が有り、身躰中が勞れて手足殊に腰の部分が痛み、腰から下が拔けさうになり、立ッて居るのも草臥びれる位ひでした、ソレと同時に便通がない。ソレが爲めに或醫師に診斷をして貰ッた處が、熱は四十度七分に上ッて居る。ソして其

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

醫師は、流行性感冒と診斷を下して、療治をして居りました、所が流行性感冒は通過して、規則通りに熱も減じて參り、只少し食事が進まず便通が充分でない、其後に追々インフルエンザの熱は冷めて來ました。所が六月の十三日即ちインフルエンザに罹ッた日から五日目に至ッて熱は降りましたが、精神に一ッの變化を起した、ドウ云ふ變化を起したかと云ふに。平常大變温和の人が、急に勢が好く活潑になッて、誰れでも無暗に咄しをし、平生無口の人が大變多辯になりました。ソして人の話しをして居まする様子を聞くと、成る丈け人の咄しを破す様にくと考へて居る、設令ば一人の人が晝の菜は野菜に仕様と云ふに、自分は魚に仕様と云ふ様に万事人に逆らふ様な氣質に變じ、又頻りに外出して、少しも用に立たぬものを澤山買ひ集める、ソレを傍から止めますると大變に怒るので、家の人もドウも平常とは氣質が變ッたと思ッて居りましたが、まさか精神病で有らうとは氣が附ない。其翌る日即ち六月の十八日になりますると、今度は大變な事を言ひ出して、「ドウも一躰日本では女が男に大變壓し附けられて居るが、ソウ云ふ道理が無い、是れからは演説を企てゝ那方此方に往ッて演説をしなければならない」と云ッて、演説を企てたり、或は水天宮様の御札を持ッて、私には確かに水天宮様の心が乘り移ッて居るから、是れから演説を爲し、學校を開き裁縫を勉強して裁縫の先生にならうと云ふ様な考へが、澤山起ッて來た。ソウ云ふ有様で有りましたけれども、家の人は此頃様子が變ッて居るが、是れは全くインフルエンザの熱の爲めで有らうと思ッて居りました、處が益々様子が變ッて來て、仕舞には御客様が來ると、其客が自分の好いた人で有ると無理に引き止め、嫌ひな人だと「貴方にはなんにも用が無いから直ぐ

に歸ッて呉れ」抔と打ちつけに云ふので、是れでは困る、若しや精神の狂ッたのではあるまいかと云ふので、七月の朔日に私の處に參ッて診察をした。其診察をして居りまする間にも、ドゥ云ふ樣子かと云ふに、一口に云へば、嘗て靜かなる温和の人が、なにか心の中に不愉快な事が有ッて、大變お酒でも飲んで暴れると云ふ樣な有樣です。先づ私の所に來て挨拶は仕まするが、ホンの一寸した挨拶で、イキナリ椅子に腰掛けるにもあたりまいに掛けて居らぬ、先づ一寸形容して見ると、品行正しい御婦人方で有りながら、斯ふ云ふ風です。(片足を膝頭に上げる)ソウ云ふ風な失禮な有樣をして、絶えず四方を見廻して、天井を見るかと思へば私の顏を見る、ソウかと思ふと此方の邊を見ると云ふ樣に、更に落ち附いて居りません。其時の事を筆記して置きましたが、話しをするにも一つも纒ッた事は無い、例えば斯う云ふ事が有る「私の兄は洋行したとが有る」と云ふかと思へば、傍らに舟の額の懸ッて居るのを見て直ぐに「此船は米艦ですか獨艦ですか横須賀に居るのですか「又直ぐに外を見まはして「私は氣は狂ひは仕ません、唯人の云ふ事を聞かなくなッた斗り」と申して、私は別段問を出しませんのに家の事を悉く咄し始め「一躰私のおふくろは斯うです、良人は斯うです」と母親と良人の事をひどく惡るく申します。私は少しも家内の關係に就て問題を出さなかつたのですが、皆自分から話し出しました。斯くの如き容躰ですから、先づ適當の療治を施して歸ります時は途中で車を止めるや否や、車から落ちる樣な有樣をして飛び下り、三味線抔を拵へる家に往ッて月琴を二面に琴を一面買ひまして、いつの間にか金を持ち出したか知らないが、恐らくは宅を出る時に、默ッて持ち出したもので御座いませうが、懐中に五圓札

を幾枚も持ッて居ッて、其金を直ぐに拂ッて歸りました。其後は月琴が出來たから一週間ばかり始終月琴を彈じて居ッたが、ソレも倦きて仕舞ッて、自身では「ドウしても自分は病氣で無い」と云ふ考へが有るから、家の事はなんでも自分でしなければならんと云ッて居る、其後度々診察しましたが樣子は以前の通りで少しも癒らない。然るに七月の二十五日に爲りまして、大變に落ち附いて參り、話しを仕ましても分る樣になり、前の事を大變後悔して、私は全く今迄は精神病で有ッたと云ふ事を悟りましたから、其後は藥を廢して養生法丈けに致しました。此婦人は六月の十三日からインフルエンザに罹り、十七日迄はインフルエンザ丈けで有つたが、ソレから精神に變動を起し、七月二十五日に全快するまでに、五週間の日數で病は全癒しました。併し其頃は精神病は外に原因が有るので、全くインフルエンザと精神病とは別なもので有るか、ソレとも何か關係して居るかと云ふ事に就ては、私はまだ疑ッて居りましたから、外に精神病になるべき原因が有りはしないかと尋ねて見ますると（一寸間でお咄しが違ひますが）前會にお咄しした通り凡そ物には原因が有ッて結果が有る、本が有ッて末が有ると云ふ事を申上げました如く、例令ば火事と云ふものは、ドウして起るかと云ふに、火を附ければ火事になると一口に云ふ事は出來ない則ち火事になるには、此方で火を扱ふ時の過ち、ソコに風が這入り木材が乾ひて居ると云ふ、三つの原因が有つて火事になる。ソレと同じで此精神病者は全くインフルエンザが原因で有るか、外に精神病を起す譯が有るかと云ふに、何にもない、只疑ひを起しましたのは、遺傳と云ふ事で有る、患者の親族の中に、精神病或は脳病の質が有るかと尋ねて見ました所が、此人の眞個の兄さんは、精神病に

罹つて居つた所が、昨年の五月十八日に脚氣衝心の爲めに死にました。又外戚の伯父さんは御維新前に、精神病に罹り腹を切つて死んで仕舞ッた。斯くの如く遺傳の有る所に、インフルエンザに罹つたものですから、精神病を發したので御座います。此の病人は躁狂と申して躁ぐ質の氣狂ひで御座いました。

第二の例を擧げれば、昨年の六月二十八日に診察しました五十歳になるお婆さん、此人は某商人の妻で御座いまして、子供の時分から身躰は至ッて健全で、氣質は極く温和、ソして無用の事を云はない（どッちかと云へば少し無口過ぎる位い）性質の人で御座いました。此人が昨年の六月インフルエンザに罹り、同時に家内中が一度にインフルエンザに罹りまして寢て居りました、所が此人は六月十六日になりまして、熱が一圖に減じました、最もインフルエンザに罹りましたけれども、家内殘こらず寢て居るものですから、止むを得ず自分が起き、少しの熱を押して働いて居ッたさうでしたが、十六日に熱（始め四十度以上でしたが三十度內）が下がると同時に精神が可笑くなッて來ました。其初めは「ドウも私は神樣に向ッてすまない事をした、神樣を信仰しなかッたのは實に私の過りで有ッた」とか、或は「衣物を充分に拵へて置かなかッたから、皆んなが斯んな病氣になッても衣物に差支へて不自由させるのは、なんでも私が惡るかッたのだ」と云ッて自分が惡い〳〵と考へて、氣が屈し且つ悒いて、朝から晩まで座敷の隅の方の暗い所に、頭を入れて羽織を被り、息を殺して時々溜息を附いて、惡るかッた〳〵と云ッて居りましたが、六月十八日午前九時頃に剃刀を以て咽喉氣管より少し下の方をスッカリ切りました。併し其時直ぐに療治を施しましたから、幸ひに三週間許り經ッて癒りました。けれども身躰を動かす事も

出來ず、息は皆下から出て仕舞ひますから、聲も出ません、ソレ故三週間斗りは落附いて居る樣に見へましたが矢張精神病は癒らない。傷が癒へて後ちは咽喉を突いても助りましたから、今度は絶食を始めました。神樣にも逆ひ家の用事もせずに置いて、誠に濟ないから、ドウしても命は得られない、咽喉を突いても癒ッたものですから、今度は御飯を食べない。ソウして居るうちに色々の事が聞え始めた、外に大勢子供が集ッて、頻りに私の事を惡るく云ふてる、或は皆集ッて私を責める、警察官が來て警察署に拘引するとか、自分の家に在る道具は、皆人手に渡ッて家の物ではないとか云ふ樣な考へを起して、いろ／＼の事を申して居る。ソウ云ふ有樣で有りまするから、家の者も愈々精神病で有らうと云ふ事に氣が附いて、六月二十八日に私が診察致しました。私が初めて參ッた時に、洋服でなく、單衣を着流して參りました、スルと私を見て大變に喜びました、其喜んだ譯は後で分りましたが、患者は私が洋服でなかッたのを見て、是は眞個の醫者だ、警察官では無いと思ッて喜んだので有る、と云ふ事を後で家内の者から聞きました。併しまだ幾分の疑ひが有ると見へて、兩手で顏を隱し、時々此方をじろ／＼見たり何かして話をしても恐くッてたまらないと云ふ風が見える。併し他人に比べては餘程安心して居つたと云ふ事で御座りました。其後にも度々診察しましたが、私に斯う云ふ事を申しました「私の住居だの家の道具着物食べるものも皆んな夫の同輩の人の手に渡ッて仕舞つて家の物ではない、其事は毀て居ると能く聞える」と申しますから、何處から聞えたと問いましたら「天井の裏に人が居つて、其人が内々でおしへて呉れたから、ドウしても御飯を食べる事も出來ず、住う事も出來ないから、貴君の家に往ッ

ナ下女でもなんでもして働らくからドウぞ特別の御慈悲を以て連れて往つて呉れ」などゝ言ひます。ソれから又「私は此前に助ッて益々罪が深くなつて來て、此上は近々の内に引廻しになつて殺されるのだと云ふ考へが起つた、幾ら患者に向ッて說き明しても解らない、そんな風で病氣に罹りましてから二タ月程私が療治して居りまして病院に入れる約束で御座りましたが、其後入院も致しませぬから今日では癒りましたか癒りませんか私は存じません。ソコデ精神病の第一の例に遺傳の事をお咄しましたが、此の婦人も父親はなんの病氣か分りませんが、急な病で亡くなり母親は七十歲の時に發狂して一ヶ月許り經ッて死にました、去すれば是れも矢張明かに遺傳が有ります、其の他になにか原因になる事があるかと云ふに家は商人でも大きな商人でしかも實直な者で、家には大勢の人を使ッて居る立派な身分であるが此時折惡く家中が病氣で殪れて居ッた爲め、御内儀さんが起て居ッたのみの事で、別に原因はない。

此の二ッの例は格別變ッた事も有りませんがモウ一ッ例を擧げれば、第三は四十一歲に爲る按摩さんです、此の人は明治十七年丁度病人の三十五歲の時に盲目になりました。一躰來歷を尋ねて見ると、子供の時分には大層勝チ氣が強く、十一歲の時に靜岡から東京に出て古着屋の丁稚になり、二十五歲の時に横濱に往ッて、ソレから古道具古着を持ッて奥州地方に出稼ぎに往き、又は料理人となつて三年間諸所を廻ぐッて、二十八歲の時東京に古道具屋を開き、或る婦人と婚禮しましたが長く續かずに離婚して仕舞ッて、三十一歲の時に今の妻を娶り、三十五歲の時に眼病を煩らッて終に盲目になり、按摩を渡世として居りました。此人が昨年五月中(日は不明)にインフルエンザに罹り五日間經ッて、熱も減じまし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

たが、其時から精神に變化を起し非常に勢ひが好くなり、無暗に饒舌になり、遂に六月の九日には大變に強くなりまして、盲目でありながら杖を突かずに外に飛び出したり、又は「手紙を書くから早く紙と筆を持ッて來い」と云ッてなんだか譯の解らない事を書き散らし抔し、それから或日抔は恐ろしい大きな聲をして家内を呼び立て、「何處か近邊に往ッて人間を殺して其腦を持ッて來い、腦を飲むと身體が丈夫になるから早く持ッて來い」抔と云ふので、家内の者が是は必らず狐が附いたに違ひないと思ッて、豊川大明神の御祈禱を致しました、そこで患者は遂に狐の眞似をして「油揚を持ッて來い」の「生魚を持ッて來い」のと云ッて家の中を歩くに四つ這ひになッて歩き出したので、始めて精神の變ッて居るので有らうと思ひ、私の處に來ました。其時にも非常な勢ひで實に嬉しさうな樣子、心の中に少しも苦勞が無く、酒でも飲んだ樣に手を拍いて咄しをする。ソレから巣鴨の病院に入まして治療を致しました所が、一週間程で癒りました。落ち附いてから後ちに其人の申すのに、病中の事を覺えて居るのは、七月八日に家の者が集ッて手足を縛り、狐が附いたから早く出ろと云ッて非常に毆打れたけれども出ないから御祈禱を始められ、餘りの苦しさに自分から狐が附きましたと云ッて、狐の眞似をしたら漸く許されました。ケレども其實は狐が附いたのでもなんでもありません、餘り苦しいからソウ云ッたと申しました。モウ一つ病中の事を覺へて居るのは、七月九日の晩に夜中に目を覺まして見ると、自分を呼ものが有る、一尺五寸程ある白い鬚を垂れたる老人が、頭の上に金梨地塗の冠を戴き東錦とも見ゆる青地鼠色の直衣を附けた人の居るのに、膽を潰して見ると、「お前は醫師に頭を叩かれたのは、決して惡るい事でないか

ら難有く思ッて、能く勉强しろ」と云ッたと云ふ事です。成程斯んないろ〱の事が度々有ッては、落附いても居られなかッたで有らうと申しました。今此病人の原因を尋ねて見ますると、按摩の割合には有福に暮して居り、弟子も澤山有り、自分は療治に出るにも及ばないし、外に何にも原因が御坐いません。所が遺傳を調べて見まするに、外戚の祖父さんが、精神病で死ました。又一人伯父さんが有るけれども、是れも精神病に罹ッて何處に往つたか行き方が解らないそうです、して見ると是れにも遺傳が有る。斯くの如く此外に七人程の病人が有りますが、ソレも皆遺傳が有ります。

流行性感冒(インフルエンザ)はドウ云ふ譯で、精神病を起すかと云ふに、今日醫學の方から云ひましてもシッカリ解らない、漸く昨年になッて此事に氣が附いた。然るに私が昨年實見して珍らしいと思ッて、認めて居りました時、恰も西洋にも此病氣が流行し、而して又インフルエンザは精神病を起す原因となると云ふ事を發見しました。それはドウ云ふ譯かと云ふに、インフルエンザは外の病氣と違ッて虎列剌、窒扶斯と同じく流行病で、只病の種類が違ふのみです。而して又虎列剌窒扶斯、間歇熱、天然痘等が癒りまする時に、精神病を起すこと隨分澤山有る、ソレと同じ事で、インフルエンザも熱の有りまする病氣ですから、矢ッ張同じ樣な譯で有らうと思ふ。元來熱の有る時は、身躰の血の組立が變ッて來る、元人間の血は大躰ドウ云ふものが幾ら有り、又蛋白質が幾ら有ると云ふ事はチヤンと極ッて居る、其釣合が變ッて來ますると、身躰の養ひに爲りまする所の血が、變ッて來る、左すれば又身躰中の養ひが平常と變ッて來る。腦も矢張り身躰の一部分で、最も血の働きが大切の所で有りまするが、血液に變が有る

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を、ソレが爲め腦の養ひが惡るくッて精神に變りを起す。御承知の通り、酒でも飲み過ぎて頭に血が上ぼると眩暈がし頭痛がするとか云ふ樣に、少しの事でも血液の變りに依りまして、腦と云ふものは忽ちに變るもので御座いますから、インフルエンザも、熱の爲めに血の組立が變り、ソレが爲め精神病の誘因となつて、病を起すと云ふは、私の實見した斗りでなく、西洋にも事實が確かに有ります。斯くの如く(インフルエンザ)に罹れば精神病を起す者も有り、其外肺炎レウマチス等の重い病を起しますから、インフルエンザに罹ッた以上は、餘程食物に氣を附けなければならない。

(インフルエンザ)は同時に腸胃の病を釀します。又中々熱が激しく後座いますから、牛肉を食べろの、西洋料理を食べろのと云ッても皆消化しませんから、消化の好いものを少しづゝ、絶間なく食べて居るのが肝要です。其好いものは、鷄卵、牛乳、ソップとか、野菜でも成る丈け消化の好いものを少量にして度々に用ゐたとならば宜しからう。最も長くは罹りません、四五日經つと食氣が出て來ますから、ソウすると血液の組立が平日の通りに復します。最に復しますれば、身躰の養ひも以前の通りになります。故に(インフルエンザ)に罹ッたならば服藥も必要では有りますが、病中病後は身躰が弱ッて居りますから專ら養生するが肝要で有ります。

餘り長くなりますから、今日は是れ丈けに致して置きます。此の次の會には、前にお話した精神病の原因の續きをお咄し致します。

衛生叢談

◎人は成る丈け肉食をしおければなりません、大豆類の如きは牛肉抔と大極同じ程の蛋白質を含んでお

りますが、只其天然生の儘を比べていふたるまでにて、之を調理して食物とする時に至れば、牛肉は稍し其容積が減りますけれども、大豆は其元の容の二倍三倍に脹れ、又米麥類は炊きて飯となせば凡そ五倍の水分を増します、故に五穀蔬菜のみを食し肉食と同じ程の蛋白質を貪つて養ひにせんとするには、肉食よりも食量を二倍三倍若しくは四五倍に増さなければなりません、然れば料理を日本風なりとも肉食を専らとし、成丈植物類を少なく獻立せんことを要します、扨又食物の種類は様々ありといへども、其効能は蛋白質と無機質とを以て躰軀を養ふと、澱粉、糖分脂肪類を以て躰の温氣を作すとの二つに過ぎません。而して其分量は日々體の外に排泄し去る所の物を補ふに足るだけ入用でありますから、日々種々の品物を獻立し、大抵男子の大人ならば一日の食量殘らすの内に、蛋白質三十五匁、澱粉糖分類、百五十五匁六分餘脂肪、十一匁六分無機質、五匁九分總べて二百八匁程を含むなり精密に勘定して、食物を調理せば其益たる蓋し僅少ならざるべし、今にして食物調理法改正せざれば遂には脆弱の者のみ多く出で來り精神躰力とも歐米人に劣る事あれば、其結果はどうで御座いましよう、我附屬食物研究會を起すに至りたるも、亦此點に外ならざるなり、大方の貴婦人淑女御賛成御入會あらまほしくこそ、

雜録

◎コヒ治療法實施ノ成績　獨逸政府は昨年十一月中旬より翌月に至る間にコヒ治療法を施したる結核患者二千百七十二人に就き一の統計表を調製せしめたり此統計表に據るに内部の結核患者中全治に至りたる者十三人大に快癒に赴きたるもの百七十一人稍や快癒に赴きたる者百九十四人、死亡したる者四十六

人又外部の結核患者中全治に至りたる者十五人大に快癒に赴きたる者百四十八人稍や快癒に赴きたる者二百三十七人死亡したる者九人とありたり　本月十一日官報

◎コッヒ液試驗　帝國大學醫科大學第一醫院に於てコーヒ液の少量を各種癩病患者に注射せしに局所及一般の反應はありたれども其治療上に効ありや否は經驗日尚ほ淺きを以て未だ判然ならず但歐洲にても又同樣の成績なりと　本月十日官報

◎東京ノ虎列剌　本月十三日芝區愛宕町一丁目八番地川口やす五十八年は類似虎列剌病に罹り同日死亡せりと云ふ東京に於る本年虎列剌の初發なるべし、

◎東京にては痘瘡流行の萌しあり兵庫縣にては發疹窒扶斯流行し之に感染するもの太だ多しとインフルエンザノ後氣味惡しき事あり、

本會錄事

◎四月四日午後一時より芝紅葉館に於て本會育兒園設立義捐會を開らく恰も善し好天氣來會する貴女紳士無慮七百餘名最初に色川國士君加藤弘之君に代りて育兒園設立主意を述ぶ次に緒方正規君食物に就て演說せられ終つて娘踊あり次に三遊亭圓朝の落話しあり次に山勢山室萩岡原等の合奏ありしが館內庭園に滿々たる聽衆も靜聽感嘆せさるなし終ッて能狂言(貰ひ婿、三人不具等の滑稽)落語等ありしが何れも其滑稽諧謔なるには人々腮のはずるを忘れたり次に娘踊二回ありしが就中千本櫻靜忠信の諸作は甚優美可憐にして館內人々脊伸を競ひ庭中の人々は小山に登りて館中を遠望するが如き實に非常なる盛會なりし是皆諸君の贊成協助の賜なり

◎本會附屬育兒園設立ニ付寄附せられたる人名左の如し(姓名いろは順)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一金參圓　濱田玄達君
一金五圓　濱尾新君
一金壹圓　萩原そふ子
一金參圓　林繁子
一金參拾錢　原八重子
一金參圓　西周君
一金貳圓　大澤謙二君
一金參圓　加藤照麿君
一金五圓　辻新次君
一金五圓　南部甕男君
一金參圓七拾錢　長與專齋君
一金壹圓　村岡範爲馳君
一金貳圓　馬渡たま子
一金貳圓　野邊地たき子
一金五圓　山縣とも子
一金參圓　朝山義六君
一金五拾錢　明石かね子
一金參拾錢　安德りん子
一金壹圓　佐藤三吉君
一金參圓　宮本仲君
一金參圓　宮下俊吉君
一金參圓　三宅ふじ子
一金貳圓　三井銀行
一金參圓　弘田
一金貳圓　諸葛すみ子

合計六拾四圓八拾錢

（以下次號）

育兒園設立義捐會收支決算

收入之部

義捐金總高	三九四円、〇〇〇
特別義捐金	六四、八〇〇

合計	四四八円、八〇〇
支出之部	
一印刷費	四円、二七〇
一郵税	二、九五〇
一藝人手當	五三、五〇〇
一來會者菓子	二二、五〇〇
一講師饗應費	三〇、三五〇
一雜費	二四、〇五〇
合計	一三七、六二〇
收支差引	
殘金	三一一、一八〇

◎本會育兒園設立義捐會の結果左の如くなるを以て直ちに開園せんとすされども尚多少規則の修正をなすの必用なれば規則修正次第雜誌ニ掲載すべし

當四月入會者宿所姓名

通常會員

一池田夫八　神田區駿河臺
一伊東雪子　麹町永田町
一萩原重子　麹町平河町六町目十三番地
一西たみ子　京橋三十間堀三丁目十七番地
一星野てい子　神田區淡路町一丁目
一得能純子　神田橋内印刷局官舍
一河津繁子　麹町飯田町三丁目二十七番地
一横井とめ子　芝愛宕下町三丁目一番地
一椿たか子　麹町元園町一丁目六番地
一堤豊子　本所二葉町
一中野ゑつ子　京橋三十間堀三丁目十八番地
一山田鳩子　麹町有樂町三丁目壹番地
一古谷富子　駿河臺鈴木町十六番地
一福田きね子　麹町區一番町五十二番地

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一古市幸子　根岸金杉村
一朝山豊子　横濱北仲町
一榊　晝子　本郷西片町十番地
一榊　實子　本郷弓町一丁目十一番地
一志賀かま子　本所若宮町五十四番地
一多田　某　一ッ橋通町二十番地

男子賛成員

一多田房之輔君　一ッ橋通町二十番地

◎來月二日午後一時より京橋區宗十郎町大日本衛生會事務所に於て左の講演有之候間御來會被下度候

一本會設立育兒園の企望に就て　宮本仲君
一精神病の原因　榊俶君
一産の話　朝山義六君

◎本會規則摘要

一本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持するの方法を講究し且社會全般の幸福を増進するにあり

一本會々員たらんと欲する向は族籍住所姓名を記し本會事務所へ申込あるべし

一本會々員を分て終身會員特別會員通常會員書生幷男子賛成員とす

但終身會員は入會の節拾圓を收むるもの特別會員は毎月貳拾錢以上を納むるもの通常會員は毎月拾錢を納むるもの學生は毎月五錢を納むるもの男子賛成員は毎月拾錢を納むるもの

一本會講談會は七月八月を除くの外毎月一回通常第一土曜日午後一時より開會し會員は勿論會員知己の傍聽を許す

一本會雜誌は毎月一回發行し會員に頒つ

一會費は郵便小爲替にて東京下谷郵便局へ向け振出しあるべし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生附屬衛生食物研究會主意

衛生の苟且にすべからざるは大方の能く知らるゝ所なれは敢て此に贅せす是夙に各衛生の設あるを以て知らるべし

我等聊感する所ありて曩に婦人衛生會末席を汚し爾來此の道に心を委ね日夜苦慮する事久し是只人生至寶の健康を得し天賜の幸福を全うせんとの希望なりされど衛生の道も順序を追ふて進まざれば其効も空しかるべし衛生の第一に講ずべきは飲食を措て他あらじ次で衣住育兒看護法の必要なる今更云ふをまたずと雖もそは順を追ふて他日之を講究する者とし先づ今日着手の初めに當り食物研究會を起すは衛生上直接に利害ある物なれば此に本會を起すこととはなりぬさて本會は只管衛生の主旨に隨ひ和洋折衷の調理を會員互に研究し料品の滋養の多少等は親しく衛生試驗所の分析を乞ひ物價の廉にして滋養食物調理を研究し併て鹽梅の精巧を得せしめんがためなりもとより貴婦人方に厨下の業は不要の如く見ゆれども衛生を重じ家政を重とするには食物の研究一日も苟且にすべからざるなり以上本會の主旨大畧として書き記しぬ大方の貴婦人淑女御贊成あらまほしくこそ。

衛生食物研究會假規則

第一條　本會ハ衛生食物研究會ト稱シ假ニ麹町區飯田町四丁目二十八番地岡田ミス子方ニ置ク

第二條　本會ノ目的ハ價廉ニシテ滋養ノ多キ食物ヲ撰ミ和洋折衷ノ調理ヲ研究シ會員互ニ是ヲ日々實際ニ行ヒ專ラ衛生上ニ効驗ヲ現スヲ旨トス

第三條　何人ヲ問ハス本會ノ目的ヲ贊成入會ヲ望ムル諸姉令孃ハ直ニ入會スルヲ得可シ

但入會ノ際器具料トシテ金五十錢ヲ納ムヘシ

第四條　本會ハ當分毎月三回第一第二第三金曜日午後一時ヨリ開會ス

但出席ノ有無ハ開會一日前ニ報知アルヘシ報知ナキハ出席ト見做スヘシ

第五條　本會ヘ參會スル者ハ一回金貳拾錢ヲ會費トシテ納ムル可シ若シ會員外ニシテ臨時出席ヲ臨マルル時ハ來會ヲ許ス

但會費貳拾五錢持參アルヘシ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私立明治女學校 新入生徒募集

定期試驗終れるに付新入生を募る。普通科は五年卒業にて小學尋常科卒業と同資格の人を迎ふ。英學專修科は、毎日二時間の授業にて高等の英學を教ゆ、自由に何れの組にも出席することを得。其他、國文、漢學、皆な專修科あり。職業科は、縫箔、裁縫、速記、繪畫の四科現に授業中にて尚ほ新入を許す。主計科は半年卒業にて、夏休后に第二期生を募る。尚ほ細則を望む人は、郵便切手二錢封入御申込あれ。

◎英學專修科略表

一年生

ユニオン第一、第二、第三讀本譯讀(一週七時)
讀方、書取、作文各一時間(外國婦人)

二年生

ユニオン第三、第四讀本譯讀(一週七時)
讀方、書取、作文各一時間(外國婦人)

三年生

第五讀本、文典、ラセラス等譯讀(一週六時)
英講、書取、作文、讀方一時間(外國婦人)

四年生

イルビング文集、修辭學、ゴールドスミス小説譯讀一週六時 英講、作文、讀方、合四時間(外國婦人)

五年生

シエクスピア戲曲。ミルトン失樂園。ユゴ、悲史。エリヲツト、ロモラ。撰詩。批評。作文。修辭學等(右十時間、大抵外國婦人)。

◎漢學專修科略表

一の組 王陽明文粹。莊子。詩經。唐詩選。
二の組 古文眞寶。日本人詩集。政記。
三の組 外史

東京下六番町六番地
明治女學校

御注意

會員諸君にして御轉居の際何等の御報知なき方多く雜誌配達其他種々差支へ甚不都合に候間御移動の際には必ず御報知被下度候

會費御不納の方は至急事務所まで御送附被下度爲替は總べて下谷郵便局宛に願上候

私立大日本婦人衛生會事務所
東京下谷區練塀町四十三番地

本會雜誌編纂委員 太田いく子 鈴木まさ子

發行所 東京下谷區練塀町四十三番地 私立大日本婦人衛生會

東京麹町區三番町六十七番地 編輯兼發行人 巖本善治

東京麹町上二番町四十八番地 印刷人 八木吉六

秀英舍印刷

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN